

〈ヌレエフの再来〉と謳われる類まれなる才能と、
それを持て余しさまよう心――

アカデミー賞ノミネート監督
スティーヴン・カンター × 写真家・映画監督(「RIZE」)
デヴィッド・ラシャペル



ダンサー、セルゲイ・ポルーニン 世界一優雅な野獣

監督:スティーヴン・カンター
「TAKE ME TO CHURCH」演出・撮影:デヴィッド・ラシャペル
出演:セルゲイ・ポルーニン、イーゴリ・ゼレンスキー、モニカ・メイゾン他
2016年 / イギリス、アメリカ / 85分 / カラー / 16:9 / DCP / 原題:DANCER
配給:アップリンク、パルコ



19歳で英ロイヤル・バレエ団の史上最年少プリンシパルとなるも、人気のピークで電撃退団。
バレエ界きっての異端児の知られざる素顔に迫ったドキュメンタリー。



もがき、踊る。 天才の宿命を、 目撃せよ。

19歳で英国ロイヤル・バレエ団の史上最年少男性プリンシパルとなったセルゲイ・ポルーニンは、その2年後、人気のピークで電撃退団。そのニュースは国内メディアのみならず、世界中に報道された。途方もない才能に恵まれ、スターになるべく生まれた彼は、その運命を受け入れなかったのだ。バレエ界のしきたり、天才ゆえの重圧、家族の関係。スターダムから自滅の淵へ――様々な噂が飛び交う中、彼が再び注目を集めたのは、グラミー賞にもノミネートされたホージャのヒット曲「Take

Me to Church」のミュージックビデオだった。写真家のデヴィッド・ラシャペルが監督し、ポルーニンが踊ったこのビデオはこれまで彼が生きてきた苦悩と、微かに与えられた光とを表現し、YouTubeで1,800万回以上再生され、ポルーニンを知らなかった人々をも熱狂の渦に巻き込んだ。〈ヌレエフの再来〉と謳われる類まれなる才能と、それを持て余しさまよう心。本人や家族、関係者のインタビューから見えてくる彼の本当の姿とは…?



「苦しみから解放されるには――踊るしかない」セルゲイ・ポルーニン

ダンサー
セルゲイ・ポルーニン
世界一優雅な野獣

監督:スティーヴン・カンター
「TAKE ME TO CHURCH」演出・撮影:デヴィッド・ラシャペル
出演:セルゲイ・ポルーニン、イーゴリ・ゼレンスキー、モニカ・メイゾン他
2016年 / イギリス、アメリカ / 85分 / カラー / 16:9 / DCP / 原題:DANCER
配給:アップリンク、パルコ

オンライン映画館
UPLINK Cloud
アップリンクが発行する
ライクエクスプロード
web DICE
www.webdice.jp

【セルゲイ・ポルーニン】 Sergei Polunin

1989年、ウクライナ・ヘルソン生まれ。幼いころからバレエの才能を発揮し、貧しい家庭環境でありながらもキエフ国立バレエ学校に入学。2003年、13歳でルドルフ・ヌレエフ財団の後援を受け英国ロイヤル・バレエスクールに入学。ロイヤル・バレエ団退団後はロシアの著名なダンサー、イーゴリ・ゼレンスキーに招かれ、スタニスラフスキー・ネミロヴィチ＝ダンチェンコ記念音楽劇場(国立モスクワ音楽劇場バレエ)とノヴォシビルスク国立オペラ劇場バレエ団のプリンシパルとなった。また、ゼレンスキーが芸術監督を務めるバイエルン国立歌劇場バレエ(ミュンヘン・バレエ)で「常任ゲスト・アーティスト」となっている。現在はダンサーを支援する組織「プロジェクト・ポルーニン」を発足。2017年3月には、「プロジェクト・ポルーニン」と題した自身のプロデュース公演が同劇場にて開催された。映画出演も決定しており、ケネス・ブラナー監督、ジョニー・デップ主演の『オリエンタル急行殺人事件』、ジェニファー・ローレンス主演『Red Sparrow』、レイフ・ファインズ監督によるヌレエフの伝記映画『The White Crow』などが待機中。

恵比寿ガーデンプレイス内2館で連動上映
8月19日(土)公開
朝は東京都写真美術館ホール
午後はYEBISU GARDEN CINEMA

東京都写真美術館ホール
03(3280)0099
www.topmuseum.jp
11:00~上映

YEBISU GARDEN CINEMA
0570(783)715
www.unitedcinemas.jp/yebisu/
上映時間の詳細は劇場HPまで